

1 特別の教育課程の概要

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されるため、英語を用いたコミュニケーションへの意識の向上を図る。そこで、小学校3年生～4年生においては、総合的な学習の時間を35時間削減して外国語活動に充て、年間70時間の外国語活動において、英会話を中心とした学習を行う。

区分	標準時数			上関小学校		
	総合	外国語活動	外国語	総合	外国語活動	外国語
第1学年					【10】	
第2学年					【10】	
第3学年	70	35		35	70	
第4学年	70	35		35	70	
第5学年	70		70	70		70
第6学年	70		70	70		70
項目合計	280	70	140	210	140	140
合計	490			490 +【低学年20】		

2 学校または地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

上関町は、人口約2700人、児童生徒数100人以下の小さな町であるが、町単独で外国語講師を雇用し続けるなど、17年前から小学校外国語活動の取組に力を入れている。

これらの取組により、すべての外国語活動の授業でALTとのチーム・ティーチングが可能となり、小中学校間の円滑な接続にも役立っている。

また、小学校低学年から外国語活動に取り組んできた成果から、コミュニケーション能力の素地を養う段階を超え、基礎を培うという水準であると捉えている。外国語活動に熱心に取り組む学校に対し、保護者や地域からも期待が寄せられている。

町としても、より一層外国語教育に力を注ぎ、子どもたちのコミュニケーション能力や自己肯定感の向上を図っていきたいと考えている。さらに、小中一貫教育の取組として、外国語教育についても9年間の教育課程を視野に入れた取組を進め、小中一貫教育の柱のひとつに位置付けている。

3 教育課程特例校として「英語」に着目した経緯

平成21年度から認定を受けた特例校であるが、当初の主な目的は以下2点である。

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| (1)自己肯定感の向上 | …小・中学校の9年間英語を学んだという自信をもたせる。 |
| (2)コミュニケーション能力の向上 | …英語の非母国語話者とも英語でやりとりして人間関係を築ける若者を育てる。 |

当時から、中学校を卒業すると町外の高校に進学する生徒が大部分を占めていた。何か一つでも自信もってできるものがあれば、自己肯定感も高まり、大規模校に進学しても臆することなく自分のもっている力を発揮することができる。そこで小中9年間で英語に力を注ぐことで、児童生徒の自己肯定感の向上を意図していた。

同時に、英語を学習することでコミュニケーション力の向上も期待できる。社会に出ても自ら積極的に人と関わり、関係性をつくっていける人材の育成を意図していた。

4 生きる外国語について

生きる外国語とは、上記1にあるように「英会話を中心とした学習」のことを指す。9年間で系統立てて授業を積み重ねていくことが求められている。例えば、これまで次のことが行われてきた。

- (1) 学習過程（1時間の授業の流れ）を小中で合わせる
- (2) 英会話体操
- (3) KEPT（上関 English Proficiency Test）小1～中3まで実施の英会話の習熟確認テスト年2回実施